

# いじめに正面から向き合う道徳科の授業づくり

## 新潟会場

九月十日に、会場参加とリモート参加を組み合わせたハイブリッド形式で実施しました。参加者は、会場参加者が七〇人、リモート参加者が三九人の合計一〇九人でした。内容、並びに参加者の声は、以下のとおりです。

第一部 講義

### ■テーマ

「学校の教育活動全体で取り組む道徳教育の充実」

文部科学省初等中等教育局教科調査官  
飯塚 秀彦氏

### 参加者の声

○教育目標から目指す子ども

の姿を考え、道徳の重点目標から視点を定めて子ども

の現状と、実態を把握し、

それらのギャップから必要

な道徳教育を考えるという

話、非常に納得しながら聞かせていただきました。

○子どもの心は、さまざまなか場面でいつも揺れ動いていること、それを踏まえて授業することの大切さがよく分かりました。

○重点や方向性に関する教師間での共通理解

○各教科・活動における道徳教育となる道徳科の在り方

○家庭・地域との連携―社会に開かれた学校―

## 第二部

### ■テーマ

「いじめに正面から向き合う道徳科の授業づくり」

新潟市立南万代小学校教諭

江口 和紀氏

### 【授業のテーマ】

教材の場面にいじめ問題が内在していることを発見し、その問題性と解決策を自分事として追求する姿を目指す授業

〔主題名〕  
分かり合うために

(相互理解・寛容)

〔教材名〕  
「ブラン」「乗りとピエロ」  
―同じ教材・同じ指導方法による模擬授業・実践授業(動画)の主な流れ―



- ① サーカス団の団員が自分勝手なサムを無視する場面について「当然」「仕方ない」「少しよくなない」「絶対によくない」の四択から自分の考えを示させ、理由を考えさせる。
- ② 無視はいじめにつながるという考え方を引き出し、なぜ無視はいけないかを考えさせる。
- ③ ピエロの行為を提示し、無視をすることなく問題を解決する方法を考えさせる。

この授業では、「無視するのは当然」「仕方ない」と

いう子どもたちの本音を引き出した上で、無視という行動の問題性について気づかせ、何が問題なのかを深く考えさせる活動を通して、「当然」「仕方ない」という考え方やシンキングエラーであることをあまり出すことを目指しました。

### 参加者の声

- いじめを防ぐための道徳科の授業を示していたとき、学びが多かったです。感情から理性へと移りゆく過程が分かりました。
- 模擬授業+実際の授業でとても考えることができました。本音で話し合える学級経営に感動しました。
- 子どもの姿から授業を語つてもらえるのは貴重でした。いじめに切り込み、子どもたちの本音を引き出す授業、自分の授業にも生かしていきたいと思います。

## ②授業解説

新潟大会実行委員会委員長

吉原 修英

### 内容

江口教諭の実践を、いじめを扱う視点と道徳科の授業づくりの視点から、九つのポイントを設定して工夫点を解説。



### 参加者の声



模擬授業を受ける参加者の皆さん

### 研究会を終えて

- 解説によつて、授業の成果や課題が明確になりました。授業者の意図や指導技術の素晴らしさがよく伝わりました。
- 「シンキングエラー」という言葉は初めて聞きましたが、いじめにつながる心をあまり出すために大切だと気づきました。

今回新たに採用したハイブリッド形式での研究会、第二部での「模擬授業+実践授業動画+授業解説」による提案、前回から採用の現場教員（三五人）による実行委員会組織は、かなりの効果があつたと考えます。

しかし、連続・継続参加者が極めて少ないこと、教員ではない一般市民や保護者の皆様にも分かりやすい内容とすること、リモートでの音響効果を改善すること等の課題も出ています。改善を図り、研究会をさらに成長させていきます。

